

♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.26

2019年8月26日発行
一般社団法人グリーン・市民電力



ソーラーパネル
リサイクル

見てきました！！

「リサイクルテック」(北九州エコタウン内)

～グリーンコープ生協ふくおか折尾若松支部委員会～

2018年10月の台風で広島物流センターの太陽光発電設備(47kw)が大破しました。破損したソーラーパネルは廃棄せざるを得ず、その廃棄を適正に行っている業者を調査したところ、北九州市にリサイクルできる工場があることがわかり、処理をお願いしました。

同じエリアにあることからGCふくおかの折尾若松支部委員会からリサイクルテックへの見学要望があり、6月25日、総勢15人で視察しました。

ゼロエミッションをめざして！
手分解によるきめ細かい分別で、
99.8%が再資源化されている！



- ・リサイクルテックは、北九州エコタウン事業の一環企業であるため、個別の見学はできません。すべて北九州市の「エコタウンセンター」が窓口となり、学習・研修目的の視察を受け入れています。
- ・太陽光パネルの寿命を迎える20年後に大量に排出されるということで、現在は、量的に少ないため太陽光パネルのリサイクル作業は、すべて手作業で行っています。
- ・なお、工場内及び周辺は、トラック、リフトが頻繁に動いており危険区域が多いため、見学は2Fの見学用通路からとなっています。

当日、太陽光パネルのリサイクルの現場は見ることはできませんでしたが、今後太陽光パネルが耐用年数をむかえてもリサイクルできる場所があることで、「グリーンコープでんき」を自信をもって勧めることができると皆で確認しました。



エコタウンセンターの職員が同行し、説明はリサイクルテックの職員(左)

支部委員
からの感想

自分達の身近にあるのも嬉しい。地域組合員に発信していきたい。

太陽光パネルのリサイクルが見られると思ったが、まだ見られなかった。コピー機のリサイクルを見ることが出来た。ゆくゆくは太陽光パネルのリサイクルができることを知ってよかった。

糸島に発電所を作ってから、太陽光パネルを安全にリサイクル出来る所まで来た。進歩がすごく、自分も力が湧いてくる。



「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。 《その24》

2020年4月から、託送料金の中に、原発のための新たな負担金として、①賠償負担金 ②廃炉円滑化負担金という2つが新たに転嫁されることが、経済産業省内で決められようとしています。

＜シリーズ第18回＞

今年1月、経産省に「陳情書」を届けています。前号までで「賠償負担金と廃炉円滑化負担金を託送料金に上乗せしないでほしい」とした陳情内容を案内しました。今号と次号で、現在の託送料金の中で問題と考えた陳情内容を案内します。

次のように陳情しました。

二．託送料金をその本来の姿である送配電網の維持に係る費用に対するものとするべく見直しを行ってください。

① 託送料金は送配電に要する費用を負担するもの、いわゆる「電線使用料」である、と承知しています。

② しかるに、その託送料金に、現在「電源開発促進税」と「使用済核燃料再処理等既発電費」全額が原価として算定されています。これらは原子力発電に要する費用です。それを託送料金に含めることを無くすよう、見直しをしてください。

③ また、私たちは独自に、九州電力・関西電力・東京電力三社の「託送料金原価」とその元になる「電気事業経費」との比較調査を進めていますが、その中で、①これは送配電費用として託送料金原価になるものなのだろうか、②これは本当に送配電部門費用として適正な算定(配賦)率なのだろうか、③見通しとして認可される託送料金原価を事後に実際に発生した事業経費額と照らして点検や

検証がされているのだろうか、といった疑問を生じさせるものが幾つか生じています。点検や検証を行って、本当に適正と言える託送料金にしていくことが必要ではないでしょうか。

④ これらの作業を通して、私たちは、今後青天井のように、原子力発電の費用、とりわけ「バックエンド」と言われるものの費用が増えていくこと、それらの多くの費用の備えがされていないということを知ってきました。今後、こうした費用の中味を明らかにして、貴省が今でも「原子力発電のコストが安い」と言われていることが正しいのかどうかを検証し、もし正しくないのならそれを速やかに明確に訂正することをまずお願いしたいと考えます。そして、こうした費用を今後、これまでなされてきたようなロジックを用いて、新電力事業者や国民（電気利用者）が知らないうちに託送料金に転嫁するようなことが無いようにしてください。

このうち電源開発促進税と使用済燃料再処理等既発電費については、以下の内容です。

(1) 電源開発促進税は「電源開発促進税法

(1974年)」で、使用済燃料再処理等既発電費は使用済燃料再処理等発電費や使用済燃料再処理等準備費とともに

「使用済燃料の再処理に関わる法律(2005年)」で決められたものであり、いずれもその後電気料金原価に算定されるようになっている、と承知しています。

(2) 電源開発促進税は、「平成23年度決算において、明確に電源ごとに内訳を算出することができる事業等に係る支出については、原子力発電等関係は約3,442億円、火力発電関係は約9億円、水力発電関係は約63億円である」(『衆議院議員小池政就君提出電源開発促進税のあり方に関する質問に対する答弁書』)という政府からの説明に明らかなとおり、その圧倒的大部分は原子力発電等関係に支出されているものです。また、使用済燃料再処理等既発電費は100%原子力発電事業に要する費用です。

(3) これらが電源開発促進税法や使用済燃料の再処理に関わる法律によって、電気事業経費として電気料金中に含まれ、電気利用者(国民)が負担するものとなってきた経緯については認めなければならないのだろうと考えています。

それにしても、これらが「再生可能エネルギー賦課金」がされているように電気料金明細書に明示されることはなく(使用済燃料再処理等既発電費は一部の電力会社では掲載されているようですが)、実際に負担する電気利用者(国民)は自分たちが負担していることが分からないようにされている点は問題です。そして、最近になって「再生可能エネルギーの国民負担が多すぎる。問題だ」と言わんばかりの風潮が一部に見られるのとは対比的に、この二つの負担のようなことは何も取り上げられることがない状況は不公平です。

(4) 電力自由化を進展させていく中、それらが、貴省の省令(『電気事業法等の一部を改正する法律附則第九条第一項の規定

に基づき一般電気事業者が定める託送供給等約款で設定する託送供給等約款料金の算定に関する省令』)でもって、全額が託送料金中に含まれるものに変えられたという点については認めがたいと考えています。これらはどう考えても、送配電網の維持のための費用ではなく、発電、とりわけ原子力発電に要する費用です。

(5) 仮にこれらが、賠償負担金や廃炉円滑化負担金と同様に、「電気事業法上、ユニバーサル料金など、消費者が広く公平に負担する費用を含めることができる」に当たると言われるとしても、前述したとおり、電気事業法にその根拠となる規定は見当たりません。

(6) また、使用済燃料再処理等発電費や使用済燃料再処理等準備費は電気料金原価であり続ける一方で、使用済燃料再処理等既発電費だけが託送料金に転嫁されるようになっています。賠償負担金や廃炉円滑化負担金の説明で用いられている「過去に原子力発電の電気を利用してきたから」という理屈で、「過去分=既発電分」と見做してそうしているのかもしれませんが、しかし、前述したとおり、「過去分の請求」というのは社会通念に照らして普通の人たちが理解できることではありません。

(7) 私たちが調べた限りでは、電源開発促進税と使用済燃料再処理等既発電費が送配電の費用に含まれる理由は見当たりません。したがって、これも憲法第29条(財産権)で保障されている新電力事業者や電気利用者(国民)の財産権を侵害するものとなっていないでしょうか。これらを託送料金に含めるのを止めて、原子力発電の発電コストと正確に算定し、それをきちんと原子力発電事業者が負担するものとするように見直してください。(次号につづく)

■グリーンコープでんき

7月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所やGC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	契約件数	契約容量(kW)
GC生協おおさか	52	229
GC生協ひょうご	34	164
GC生協とっとり	40	185
GC生協(島根)	77	344
GC生協おかやま	77	323
GC生協ひろしま	103	483
GCやまぐち生協	549	2,305
GC生協ふくおか	1,956	8,284
GC生協さが	118	631
GC生協(長崎)	160	685
GC生協くまもと	520	2,588
GC生協おおいた	278	1,192
GC生協みやざき	128	471
GCかごしま生協	216	919
G・市民電力(低圧)	28	143
G・市民電力(高圧)	59	4,573
合計	4,395	23,519

■7月の電源構成

【関西電力エリア】

神戸市環境局西クリーンセンター(燃料:一般ごみ)が発電した電気100%の電源構成となりました。

【中国電力エリア】

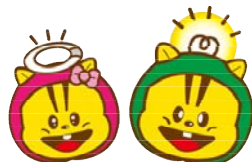
敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)100%の電源構成となりました。

【九州電力エリア】

敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)98%、熊本の馬洗瀬小水力発電所と杖立温泉熱バイナリー発電所を合わせて2%の割合での電源構成となりました。

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。



■市民発電所

グリーン・市民電力の発電所の2019年5月の実績です。5月は出力制御を3日間受けたため、全体での損失(予測)は165万円になりました。5月13日以降、再生可能エネルギーの出力制御はありません。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	239,490	9,579,600
平池水上太陽光発電所	1,260	373,318	13,439,448
深年太陽光発電所	1,550	338,979	21,938,672
若宮物流センター	47	12,068	446,516
広島物流センター	47	12,396	458,652
やまぐち西部地域本部	54	13,981	461,373
グリーン未来ソーラー(10箇所)	244	89,439	1,878,219
合計	4,259	1,079,671	48,202,480

■グリーン電力出資金

皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億0,612万円になっています。
出資目標額(積立目標額)は、7月26日現在で11億1,377万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	212	238	17,490,000
GC生協ひょうご	99	119	8,286,000
GC生協とっとり	135	148	10,890,000
GC生協(島根)	230	238	11,840,000
GC生協おかやま	147	163	12,660,000
GC生協ひろしま	652	754	72,935,000
GCやまぐち生協	587	678	43,970,000
GC生協ふくおか	5,495	6,366	536,306,000
GC生協さが	324	362	44,365,000
GC生協(長崎)	579	636	56,553,000
GC生協くまもと	1,486	1,682	124,324,000
GC生協おおいた	787	875	69,848,000
GC生協みやざき	298	336	29,095,000
GCかごしま生協	694	763	75,212,000
合計	11,725	13,358	1,113,774,000

グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。
2019年7月末支出総額は8億4,881万円で、残高は5,731万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討すすめています。

これまで出資いただいた金額	906,123,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	57,312,779